

地域家族会の活性化をめざして 会員の意識調査が行われる

地域の家族会の充実と活性化をめざして、ちよに会（松任）と金沢市域連合で会員の意識調査が行われた。

ちよに会は、保健所の協力と支援を得て実施した。会員27名のうち17名(62.9%)の解答があった。()の数は回答数

・家族会に求めているもの。

社会復帰や福祉制度等の改善(7)、いろいろな情報を得る(5)、仲間意識や精神的な安心感が得られる(4)、特に求めるものはない(2)

・家族会の活動をもっと活発化するためどうすればよいか。

家族会の活動をもっと増やしたら良い(11)

・行事計画にはどんな内容のものを取り入れたらよいか。(3つ選ぶ)

勉強会(12)、懇談会（病院、県庁、精神保健センター）(7)、親睦会(6)、交流会(5)等

・家族会と保健所の関係についてどう思いますか。

保健所はもっと家族会に積極的に支援してほしい(12)、今特に改めて関係を問題にしなくてもよい(5)

・家族会として保健所に何を一番期待しますか。

社会復帰や福祉制度の情報提供や活用について努めてほしい(6)、一般社会に対して精神保健の啓蒙をしてほしい(5)、小規模作業所や福祉ホームの設立に努力してほしい(5)、家族訪問やデイ・ケアを積極的に推進してほしい(2)

・家族会として何か具体的な目標を掲げるとしたら何がよいと思いますか。

小規模事業者の設立(5)、福祉ホームの設立(4)、リハビリテーション施設の設立(4)、その他等(3)

意識調査から活性化するために毎月の例会開催、施設見学、他の家族会との交流をする努力目標を掲げている。

また、金沢市域連合では20名の会員に対して家族会の在り方について尋ねている。8項目に、順番を付けてもらっている。その解答からは、①お互いの悩みや苦労を分かち合い励ましの場とする。②患者、障害者に対する接し方、家族の心構えの勉強会。③社会復帰に直接かかわる事業の運営（作業所、憩の家）に関心を持っていることが伺える。

家族会での意識調査は、会の運営の充実と会員の増員になることが期待される。

——「会長、全国評議員会（平成2年度）に出席する。」——

平成2年6月6日、東京・上野の池之端文化センター会議室にて全国評議員会が開催され、湯野会長が出席した。

今、全国評議員会は、全家連の城である全国精神保健福祉センター建設という大事業の実施にあたり、評議員56名に県連事務局担当者、オブザーバーを含め、45都道府県約100名余の文字通り全国の代表者が参加した。

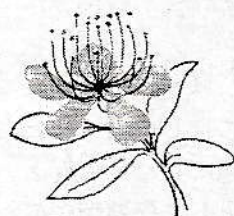
会議においては、平成元年度事業報告、決算報告、平成2年度事業計画、予算案について活発な審議がされ可決承認された。

なお、全家連の中長期の活動目標は、次のとおりでした。

- 一、精神保健法見直しに対する対応
- 二、心身障害者対策基本法の見直しと福祉法制定促進
- 三、医療法、診断報酬改訂に対する対応
- 四、障害者雇用促進法に関する適用の拡大
資格制限、利用制限等の欠格条項の撤廃
- 五、市町村における社会復帰施設整備促進

本年度の全国一斉陳情行動は、精神障害者の「証明書」の交付による適用範囲の拡大に全力を上げることを確認した。さらに、全国精神保健福祉センター建設についても、日本船舶振興会の補助で不足する部分については、企業、団体に大口の寄付を仰ぐ予定になりますが、全国の家族が率先して集めようとの意見も出された。

6月7日、2日目は、精神障害者小規模作業所運営助成事業についての事務説明会が行われた。そして、午後からは、「県連の法人化と社会復帰施設づくり」と「家族会の組織強化」について二分科会に分かれて討議され、散会となった。



全国精神保健福祉センター設立基金のおねがい

石川県の精神障害者家族会連合会には、1,684,000 円の目標額が設定されています。
3 月末での募金は、995,000 円で目標額の 59%のなっています。

〔寄付金〕

目 標	2 億 400 万円
種 別	一般・会員寄付 1 口 2,000 円
	特別寄付 1 口 100,000 円
	(口数によらず、ご協力をお願いします。)
	*別紙寄付申し込み書によってお申し込み下さい。
免税措置	10 万円以上のご寄付に対して、免税措置が適用されます。

〔建設協力債〕

目 標	2,000 万円
建設協力債の種類	1 口 50,000 円
建設協力債の条件	期間 5 年間、無利子
	(期間満了後、請求により随時返却)
	*別紙協力申し込み書によってお申し込み下さい。

寄付金・建設協力債の募集期間

平成 2 年 8 月 1 日～3 年 8 月 31 日

寄付金・協力債の使途

全国精神保健福祉センター建築費、用地取得費等

申し込み先 各家族会事務局まで
詳しくは

問い合わせ先

各家族会事務局または、石川県精神障害者家族会連合会事務局
〒920-02 金沢市南新保町ル 3-1
石川県精神保健センター内
TEL 0762(38)5761 まで問い合わせ下さい。

精神障害者の社会復帰・福祉施策充実に
関する要望書を石川県に提出

平成2年8月3日、石川県精神障害者家族会連合会（石家連）は、全国統一行動の一環として石川県知事、石川県議会議長に対して精神障害者の社会復帰、福祉施策充実に関する要望書を提出した。

毎年行っている行動であるが今回は、前日に役員研修会では内容を検討し、湯野会長をはじめ、林、梅田、土井副会長、宮井常務理事、佐野、瀬尾監事と7名の役員が揃って陳情することははじめてでした。

県厚生部次長兼健康推進課長の上谷博宣氏に会い要望を手渡しました。これからも役員、会員が協力し一致団結しての活動が必要のようでした。県議会議長は、不在の為、県議会事務室の方に手渡し、今後の検討を依頼しました。

要望書の内容は以下のとおりです。

- ・精神障害者の社会復帰施設の設置、運営の推進
- ・小規模作業所の助成補助金の増額
- ・精神障害者に交付された証明書の適用範囲拡大
- ・精神障害者家族の育成事業の強化確立
- ・「精神障害者福祉法」の制定及び身体障害者なみの雇用施策促進
- ・精神障害者に対する社会啓発事業の推進等

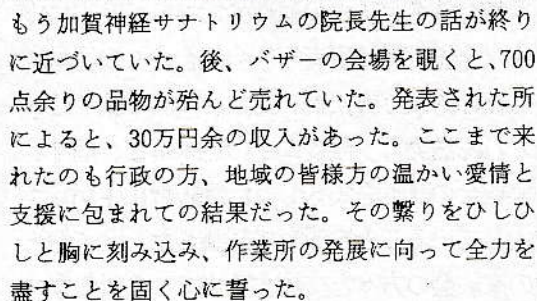
ANNU

Λ Ν Ν Ν Ν

られました。

ひまわり共同作業所長 瀬尾 敏子

という電話が何回もありました。「どんな仕事をしますか。」「カーテンにフックをつけ、たたんでシールをつけ袋に入れる仕事です。」対話が終わって会場に入ると、



(センターだより No.17 より)

9/12 北国新聞夕刊より

北信越ブロック家族相談員研修会に参加して

羽咋保健所 琴 坂 真由美

9月27日から29日の3日間にわたり、長野県戸倉市において北信越ブロック家族相談員研修会が新潟、長野をはじめ北信越5県より、250名余りの家族会関係者で開催された。

羽咋保健所管内の富来地区家族会では、今年度より町の協力も得て、“憩いの場づくり”を目標に患者会（すみれ会）と合同で学習会をすすめています。今回の研修内容は、家族会指導者の相談技術向上の講習と併せて作業所に関する研修も、もりこんであったため、家族会長の宮井さん、会員の宮坂さん、富来町役場保健婦小林さんと私の4人で、それぞれの立場で期待して参加した。

家族会連合会主催の研修会であり、ぜんかれん（全国精神障害者家族会連合会）の活動を職員の方より直接聞いたが、相談事業やぜんかれん誌発行、制度向上の運動など、個々の家族会の意見を集約し、活動方針に生かし、努力していることを改めて認識した。又、他県の家族会の方々と交流する中で、各県の家族会のもつ雰囲気、活動の違いを肌で感じた。

長野、新潟県の活動報告では市町村での精神のかかわりも古く市町村単位の家族会活動が進められ、作業所も多く更に一步進んで、現在では、共同住居にむけて前向きに取り組んでいる状況であった。自分たちの要求を具体的に示して行動している家族会は、とても明るく、力強くみえた。

「家族会の活性化」分科会には、会長と共に出席したが、どの県からも会員の高齢化や減少等の問題点が提起され、その問題について

全員で討議した。家族会に参加しない理由は、加入によるメリットがないというものが大半を占めている。対策としては、家族会員のニーズにそった具体的な活動計画をたてること、結果をかせしていくこと、又、行政機関とよりよく連携をしていく等の意見がでていた。家族会を活性化するには、家族会員の熱意のうえに行政のバックアップが必要だと痛感しました。

横浜国立大学保健管理センター助教授堀ノ内先生の「精神障害者への家族の接し方」と題した講演では、参加者全員が2人でペアを組み、人の話を聴くコツを実習し、その中で障害者との日頃の会話のまずさを感じさせられた。障害者をよくするには、今日から親自身か障害者と上手に接するよう変わることが、何より大切であるとの話に涙を流している人もみられた。私自身も精神保健相談に携わる者として大いに反省させられた。

作業所研修では、作業所の主人公は障害者をもつ人たちであること、又、関係者一人ひとりの知恵と力による共同作業であるという言葉が特に心に残った。

研修会で得た内容については、参加した4人で分担し学習会で報告しているが、家族会活動の目標を家族会員と共にみなおし、よき協力者になれるよう保健婦自身も日々の業務をみなおし、学習しなければならないと感じる。今後も家族会や管内市町、関係機関と連携し、よりよい地域精神保健活動に努力したい。

講演と映画の会を開催して

平成2年度は、私達“輪水会”にとって、たいへんに意義深い年でした。それは「講演と映画の会」を輪島で開催することができたからです。この会は、従来金沢市内で年1回開催されてきました。しかし、交通の便が悪く年々高齢化している家族会員にとって、どれだけ素晴らしい講演会でも輪島からでは特定の人しか参加出来ないのが現状でした。

平成2年度の石家連の総会の中で能登地区での開催希望を提案したところ、「輪島で…」との意見があり、少し不安な気持ちでお引き受けし、さっそく、定例会で会員の方々と具体的な準備について話し合いました。

『一般の人達に精神障害を少しでも理解してもらいたい』『このような講演会に参加したことのない人達も誘いたい』『家族会に入っていない家族にも一人でも会の存在を知ってほしい』など、思いは沢山あり、広報の方法についても“ポスター”“ちらし配布”など、いつもの定例会には聞かれない活発な意見が出されました。

それからは、会場の確保、関係期間（市役所の保健環境課、福祉事務所、社会福祉協議会、障害者団体連合会など）への協力依頼にと、幾度となく市役所へ足を運びました。当日、デイケア活動についても理解してもらおうと「ふたば会」では、お土産づくりを開始しました。保健所の方々もポスターづくり、ちらし配布など、全てに協力していただきました。

このようにして、多くの人達の協力を得て、講演と映画の会を開催することができました。

当日は、雨の降る足元の悪い日にもかかわらず、県内の各家族会の方、市内からは民生

委員、健康づくり推進員など、一般の方々にも多数参加され、300人収容の会場がいっぱいになりました。又、何より嬉しかったのは、「ふたば会」の子供達が、土産品の販売を手伝ってくれたことと、障害者団体連合会のみんが、準備から進行、後片付けと、不自由な身体にもかかわらず、先に立って助けてくれたことです。この一つの大きな行事を通して、「奥能登の小さな所でも、何とか無事にやれた！」という思いと、輪島市障害者団体連合会の中の一つの団体として、今、自分達が持っている問題を、障害者全体のものとしてとらえ、働きかけてゆけば、道が開けるかもしれない……という気持ちを持ちました。

（運営は、きっと難しいでしょうが）

今後もこのような機会が得られましたら、一般の人達へのけいもう活動を一つの団体として、働きかけていきたいと思います。

（土井談）

まてみて！ 講演と映画の会 まいてみて！

病む心への理解を求めて

日 時 平成2年11月30日（金）
午後1時30分～3時30分

場 所 輪島市文化会館3階小ホール
輪島市川井町20-1-1 ☎ 0766(22)7766

講 演 「これからの精神医療」
行野弘山 院長 杉 野 秀 男 先生

映 画 「150万人の蒼天」
※ 若くや心に夢を求めて生きている人々の
足元を引っ張る……
心の時代、暖かい社会はいつ来るのだろうか！

主 催 石川県精神障害者協会連合会
輪水会（輪島市障害者連合会）

共 催 輪島市

後 援 石川県
輪島市社会福祉協議会

協力団体 輪島市障害者団体連絡協議会

問合せ先 石川県精神障害者協会連合会
（石川県精神保健センター内） ☎ 0762(36)5761
輪水会
（輪島市川井町内） ☎ 0766(22)2011



お 知 ら せ

石川県精神保健センターで

こころの相談ダイヤルが新しく

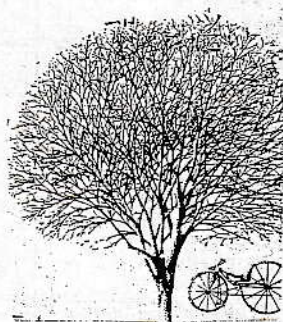
開設されました。

電話番号 0762(37)2700

開設曜日 月曜日～金曜日

開設時間 午前9時～午後4時

(土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始
は開設していません。)



編集後記

木々の新しい芽が息吹く季節となっています。
家族会の活動も自らの主体性をもって活動が
はじまってきているようにも思われます。
新しい動きを摘み取ることなく育んでいき
たいものです。